

めだかの学校伝言板

平成26年5月1日
第84号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第八十四回 校長 天野 智加志

私のめだかの学校名札は、ちよつとカタイかなと思いつつ「茶道・舞楽・仏道」を掲げております。

茶道については、四十数年前に縁あって良き師に巡り会い、茶道と煎茶道を始めました。厳しい稽古をする先生でしたが、我が師はこの人しかいないと思ひ稽古に通いました。師と弟子の関係は親子以上と思ふほど、茶人として人間として本当に多くのことを教え導いていただきました。茶会では、床の間に軸を掛けます。軸は禅僧又は家元などが書かれた書で、禅に関わる言葉が多く、これが私の仏教心を揺さぶりました。おかげさまで人生の節目節目で、忘れ得ぬ数々の「茶席の書」に出会いました。中でも「全死全生」「茶は菩薩道なり悟後の所作なり・・・」「破瀾衿裏盛清風」「看臨月尽」などが脳裏に蘇ります。

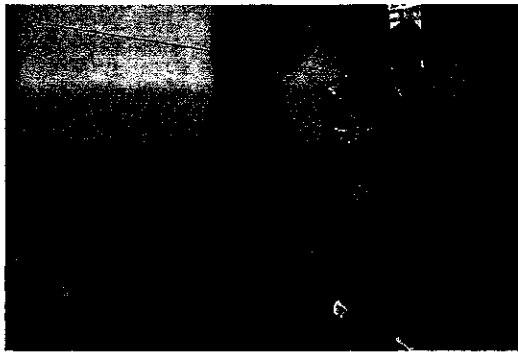
舞楽については、三十三年ほど保存伝承

活動に関わっています。社会人になって九年后に郷里に戻り、小國神社氏子青年会に入り、「小國神社古式十二段舞楽」の大人舞をやれと言われ舞楽に携わることになりました。指南役の保存伝承にかけられる情熱と信念が心に伝わり、生涯これが続けようと思志を固めました。仲間と共に大阪四天王寺の精霊会舞楽を見て「舞楽とは何か」を知り、奈良春日大社若宮おん祭で文明の利器は使わず千年前と全く変わることをない舞楽を見て「これが本物」と実感しました。また地方舞楽は、東日本では新潟、山形、秋田などにしか無く全国的に数少ない貴重な民俗芸能であることもわかってきました。数百年前に舞楽を担っていた人々と同じように、現在を舞楽とともに生きていく幸せに感謝しつつ、数百年後の未来へ、古式十二段舞楽を伝えていく使命感を持って伝承活動に励んでおります。

仏道については、子供の頃から寺や仏に興味があり、常に仏教で云う生死（しょうじ）が意識の中にあります。「俺が死ぬときこの娘が『お父さん〇〇だよ。わか

る』って手を握って呼んでくれるかな」と、我が子が生まれ名前を付けた瞬間に自分が死ぬ時を思う、ちよつと風変わりな人間です。人は生きていくうちに寺に通い「仏道を成ずる」成仏するために精進すべきと考え、日々を過ごしています。

お茶、舞楽、仏教のどれもが、遠い昔に中国・インド・西域等で生まれ我が国に伝わり、日本人の細やかな感性によって磨かれ昇華されて高い伝統文化、世界に誇りうる日本文化として育まれてきたものです。どれもが非常に奥が深く私のような者が語るべきものではないと感じております。未熟な自分、道半ばである我が身を恥じつつ、敢えて一言書かせていただきました。



「上海万博会場で小國神社古式舞楽『納鉢利』を舞う天野さん
平成22年8月16日中国・上海にて」

めだかの学校伝言板

——第84回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／天野智加志

教頭／中村やす代

用務員／星野直樹

給食係／鈴木祐之・加藤ひとみ・岩本伴江・西川裕子

池田タキ江・大久保陽・水村春江・西島朋子

大場敬子・中村やす代・松島季実代

渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出掛けを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成26年6月6日(金) 6:20PMより——

受付／鈴木青宵・川崎和子・大場敬子・斉藤昭(後見人)

21期通年テーマ：『界を超えて、ふるさとに学ぶ』

今回のテーマ：「今を生きて、今思うことは三人三様」

<時間割>

●1時間目 国語 大橋町代 先生

「時の流れの中で、今思うことは…」

●2時間目 社会 池谷俊裕 先生

「思えばこそ叶うことあり、苦して楽あり…」

●3時間目 生活 金子芳美 先生

「20分？想いが多くて足りない〜い…」

●給食の時間 ~6月は春じゃが三昧~

10:00 閉校

めだかたち

■桜も満開の4月5、6日は各地で様々なよおしが開催されていました

その中でも、メダカ生たちの活躍が目立つイベントへ2カ所足を運んでみました。ひとつは遠州森町の「町並みと蔵展」。森町中心部を歩行者専用にして、随所でパフォーミングや手作り店が出店し、歴史ある町並みを散策したり買い物を楽しんだり出来る日でした。春と秋2階の開催で、今回は18回目。お天気にも恵まれ大勢の人で賑わっていました。人力車も走っているの、疲れたらちよつとそこまで。和装の人は無料とあって、和服姿の人もちらほら。桜と共に花を添えていました。

毎回テーマを決めて開催しているこの「蔵展」。今年は遠江総合高校(旧周智高校)創設者の福川泉吾。彼の偉業の数々は西光寺の本堂でパンフレット編集長の小林桂弘メダカが解りやすくお話くださいました。また山崎家の石蔵では泉吾の資料展示を、榊原淑友メダカ代表の三木の里連の方々が担当していました。鈴木藤三郎や福川泉吾といった偉人を輩出している森町。その存在も森のメダカ生たちの活躍で日が当たりますね。

もう一つ森町、雨宮神社では「十二段舞楽」が奉納されていました。この舞楽は国指定重要無形民俗文化財。午後3時〜9時までの長い大舞台です。こちらで光っていたのは村松達雄メダカ。メディアの取材も入り大忙しでした。

同じ日に海側の横須賀(掛川市)では三熊野神社の大祭が。横須賀のお祭り男鈴木

武史メダカのお勧めで最後の夜祭りに駆け付けました。こちらも伝統あるお祭り。各町内ごとに意向を凝らした彫物のある13台の欄里(山車)が町中を曳き廻り、最後に三熊野神社に集結する様は圧巻で、山車を飾る「大花」と満開の桜が夜空に映える夜祭でした。

両日とも冬に戻ったかのような花冷えの夜でしたが、寒さも吹き飛ばすくらい熱いお二人でした。(大島たまよメダカ) ■志多ら「蒼の大地」3年ぶりの浜松公演 6月22日(日)18時開演 アクトシティ浜松 大ホール「蒼の大地」今、ひとつになりにて、行かん!

愛知県北設楽郡東栄町を拠点に活躍する和太鼓集団の志多らの舞台。いよいよ、浜松にやってきました! 志多らオリジナルの物語。衣装も楽曲もこの舞台の為に作っています。繊細かつ迫力のステージ。未来へ向けての希望のメッセージを魂を込めて届けます。是非お越しください! お問い合わせは 志多ら 0536・76・1708または伊藤静男メダカまで

■第12回全国まちづくり交流集会在INヨロン島

2014年の全国まちづくり交流会を、鹿児島県最南端のヨロン島で、6月27日(金)〜29日(日)の2泊3日で開催される。27日14:30〜オプショナルツアー「グラスポート遊覧」「マリントラック」「歴史、史跡めぐり」、17:00〜受付、17:30〜前夜祭、28日09:00〜島内観光バスツアー、13:00〜昼食・まちづくり交流会、14:30〜全体会受付、15:00〜開会式、基調講演、16:30〜全国各地域の活動報告、17:30〜終了、18:30〜大交流会、21:00閉会、2次会へ。29日は自由行動。参加費用は13000円。宿泊費は含まず。与

論島への交通は、飛行機で鹿児島空港と与論空港まで、1時間10分、那覇空港と与論空港40分、共に一日一便。フェリーも一日一便です。

お申し込み、お問合せは、第12回全国まちづくり交流会実行委員会事務局です。が、「めだかの学校」では、村松達雄メダカが取りまわっています。静岡県内の参加予定者は村松達雄、榊原淑友、鈴木正士、大島たまよ各メダカと山田勝恵の皆さんです。

昨年6月の第11回が森町で開催された時は、全国から多くの方が参加してくれました。今回の実行委員の町岡安博さん、有馬淳さん、実行委員長の山本明美さん、大盛会をお祈りしています。

■森町文化会館開館二十周年記念『東京楽所 雅楽』公演

周智郡森町・森町文化会館では、会館二十周年を記念して『東京楽所 雅楽』公演を6月14日(土)午後二時から、森町文化会館大ホールで開催、入場料は3500円です。プログラム「第一部」遠州森町の舞楽「第二部」東京楽所の雅楽、管絃II管絃楽器紹介(多忠輝)「平調音取」「越天楽」等舞楽II万歳楽・左舞・平舞等チケットのお申し込みは、森町文化会館0538・85・1111他。

出演団体の東京楽所は、宮内庁式部職楽部のメンバーを中心に結成された最高峰の雅楽団体。共演の遠州国一宮小國神社古式舞楽保存会には、天野智加志メダカが関わり、天宮神社十二段舞楽保存会には村松達雄メダカが関わっています。

同日の6月14日に磐田市で開催される2014磐田国分寺まつりの関係者と森町の舞楽保存会の方とは交流もあり、少々悩むところですね。

■いなさ湖で湖畔コンサート開催

久しぶりに引佐のいなさ湖親水公園で「いなさ湖畔コンサート」を開催します。5月18日(日)12時開場、12時30分開演「山あいに響き渡る尺八の音色を湖畔で」を合い言葉に、縄巻修己 尺八新世界へのお誘いです。

演奏者は、尺八 縄巻修己氏 電子オルガン 縄巻トモコ氏 ハーモニカ 小出信雄氏 曲目は「タイタニック」もののけ姫・いい日旅立ち・昂・イエスタデー他」会場では「とんきい・クロバー13」の出店があり、飲食できます。

主催はNPO法人ひずるしい鎮玉 後援浜松市 中日新聞 静岡新聞 いなさ湖でのコンサートはかつてメダカの「菜の花プロジェクト」が開催していましたが、ひずるしい鎮玉が引き続いて行きます。

ただし、前日の天気予報での降水確率が「30%以上」の場合は中止となります。

■「お茶摘み交流会」鈴木正士宅で開催される。

4月26日(土) 今年の交流会が鈴木正士メダカのお宅で百名近くが交流。毎年参加されている方、昨年来て楽しかったのが今年も、初めて来ましたという方で、これ以上ないという好天の中で体験交流ができました。お茶摘み、山菜狩り、タケノコ掘り、調理にと。鈴木真弓メダカは御一家で、山中メダカはご夫婦で、蕎麦打ちの松本メダカ、中村メダカ、武史メダカは忙しく動き、大橋メダカ、本間メダカ、村田メダカ、村松メダカも大活躍、尾上メダカは厨房で、鈴木偉代メダカ、本島真弓メダカ、水村メダカ、伊藤メダカと石野メダカは食に、充実した交流会楽しかったぞー。(石野省三メダカ)

●習志野市の市原実メダカ。「日本で一番美しい村連合」のボランティアで事務局長に。静岡県では松崎町のみだつて。

●名古屋市の山根圭二メダカ。高齢になつたこともあり、長年住んだ名古屋から、この5月に神奈川県へ引っ越しだつて。名古屋のシニア大学で大活躍だつた山根メダカ。新転地でも賑やかに活躍してくれるでしょうね。

●浜松市の溝口久メダカ。永年勤めた静岡県職をこの3月で早期退職。小山町の役場からオファーがあり再就職。住居は役場近くの六合山荘。平屋の古建物。単身赴任。ぜひ遊びに来て、だつて。

●浜松市引佐町の第38回校長の名和理代子元メダカ。磐田市池田、行興寺の長藤まつりの会場でバツタリ。賑わい街づくりのテントでガラス細工のガラス玉を展示即売していた。童話作家としての画はなかつたが、ガラス工芸家としての創造性を発揮していた。「主人で陶芸家の名和紅元メダカは、新城のお祭りイベントに出かけている、とのこと。娘さんも元気だつて。娘さんも一緒にめだかの学校に来たもんね。

●森町の鈴木格子メダカ。鉄を使った工芸品づくりを注いでいる。家の前にはロバやカエルや…。辰年では龍、巳年では蛇。いや／＼ヘビの時にはマイツたね。あまりりにリアルで恐ろしく。榊原明美さん、使い勝手の悪い鉄の格子柵を、使い勝手のいい格子柵に直してもらつて大喜び。

●浜松市の水島加寿代メダカ。フリーライターで、書もやり、ピアノも弾く。NPO法人「アミ」の理事として、三遠南信の地域連携に頑張る。「三遠南信の住民会議の静岡県側は組織的なまとまりが弱く、めだかの学校も加わつて！」の依頼あり。学舎

や事務局が浜松市引佐町にあった時には、行政側との接触も多く、積極的に活動していたこともあり、即OKの返事。磐田市の大島たまよメダカとうどん粉糊の役割をやつていいるんだつて。

●磐田市の小林佳弘メダカ。東海道の脇住還「姫街道『本坂道』今昔物語」を出版。4月20日(日)、磐田市の醍醐社で、「出版記念親睦の夕べ」を開く。多くのメダカ生も出席。開会式のあいさつでは、浜松市細江町の上嶋裕志メダカが、小林メダカの協力で、「姫街道サミット」が開催されたことや、榊原淑友メダカが、史実に裏打ちされた森町の伝統文化が町づくりに必要なと出版物や講演などを通して応援してくれていることへの感謝を述べてるなど、めだかの学校の人的ネットワークの良さを実感するひとときでもありました。

●浜松市引佐町のめだかの学校の舎監だつた牧野久子メダカが、「東久留女木のみどりの郷の元学舎跡は、建物はなく更地は満開」とのこと。4月19日(土)有志だけで宴を開く。皆に連絡できなくてごめん。来年の今ごろですヨ。気にとめておいてください。

●新城市の清水良久元メダカから、久しぶりの手紙。嬉しいね。NPO法人「てほへ」の理事だつて。6月22日浜松アクトシティホテルで講演の「和太鼓集団志多ら全園ツアー浜松公演」のご案内だつた。清水元メダカ、昔から「和太鼓集団志多ら」の支援者のひとり。彼の公私にわたる全面的な支援が志多ら太鼓集団をここまで育ててきたといつても過言ではないかも知れない。(磐田市観光案内所にも浜松公演のチラシ配架していますよ)。

●藤枝市の横山浩史メダカ。4月19・20の2日間、磐田市見付宿で開催された、第13

回見付たのしい文化展に出展。20日のに、会場の一つ西光寺に行く、なんと横山メダカが展示販売中。第82回めだかの学校で頂いた、桐の工芸品がいっぱい。「先ほど伊藤英雄さんが来たけど会わなかつた?」。なんだかんだと話していると、細江町の上嶋裕志メダカ。以前彼も切り絵を出展していた。どこへ行つてもメダカ生と出会うねえ。このあと17時から小林佳弘メダカの「出版記念親睦の夕べ」へ。上嶋裕志メダカや虫生時彦メダカ、榊原淑友メダカ、鈴木青宵メダカ、村松達雄メダカらと合流することに。

●あれ、袋井市の山中幸子メダカ?。BSのテレビを見ていたら、万田酵素のコーナー。万田酵素養液を使って花を育てる。どこか見た顔、山中さん?。万田酵素から電話がかかってくる、OKすると、コマーシャル出演になるんだつて。山中さんの友人が言うんだから、間違いないか。

《新入生紹介》
●浜松市天竜区の鈴木青宵メダカ。陶芸家。4月17日、27日まで、磐田市見付の旧赤松邸で伊波多焼陶芸展。遠州志都呂焼だが、実家近くの磐田市鎌田の2万年前の土を使ったことから、伊波多焼と銘名。磐田の土を使用した大皿とすすり盆を渡部修磐田市長にプレゼント。

●磐田市の松島季実代メダカ。森町で保育士。アマチュア劇団で役者もやつていいる。毎月第2月曜日に、磐田市見付のワークピアでインターネットTV web TVの司会もやつていいる。どこかズッコケルところが可愛嬌とか。

もつともつと掲載したいのですが、紙面の都合で今回はこれまで。

《めだか春秋》
最近、日本各地の山は大荒れに荒れていいる。海外からの安価な木材の輸入、高度成長期によるサラリーマン化、そして山林を守る働き手の高齢化等々。理由はいらぬ考えられるが竹が蔓延り、雑木林となっている荒れた山を見ると心が痛む。しかしそんな山を整備して花いっぱいになる桃源郷にしようとしている仲間が私の地域にいます。山が好き、地元が好き、そして花が大好きな「敷地里山を守る会」の人達だ。

今年で3年目になるが市からの補助や助成金も受けずに皆がボランティアとして手弁当で頑張っている。3年前のその山は荒れ放題になっていたという。なつていたというということは、私は今年からその会に関わり始めたからだ。それは伐採された木や、竹の量を見ればその荒れた山が想像が出来る。本頭に頭が下がる思いだ。

会員は10名程だが常時3名はほぼ毎日出勤をしている。木の伐採、草刈りの得意な人また山野草の大好きな女性がそれぞれに想いのままに楽しそうに働いている。遠州、北遠等に生育しているクリン草や花桃等、四季を通じて花いっぱいになりたい。また秋には地元の名産である柿の収穫も出来るというまさに桃源郷だ。自然環境を愛することは気持ちが良いものだ。

場所は豊岡東小学校西側の山。奥までは車で行けないが途中から歩くことになる。手作りの立て看板やトーテンポールも有りその遊歩道も十分に楽しむことが出来る。メダカの皆さんも是非この里山を見に来てください。また家に有る草花を持って来て頂けたらもつと嬉しく思います。来て頂けるようでしたらお電話(090・3303・2561)下さいね。バラさんと案内をするからね。(田村進治メダカ)

トピックス

■千寿酒と藤もなかをお伴にして

いやア、マイッタ！ 警田市観光大使の「千手」が急に行かなくなるなんて。

4月9日警田市池田の「長藤まつり」のPRで川勝平太静岡県知事を表敬訪問することになった。今更代役も。うん、そうだ、川勝知事は日本酒が大好き。千寿酒造の「千寿酒」と「藤もなか」に代役をお願いして。当日、長藤まつり実行委員長、観光協会会長、事務局長のバラメダカと、「しっぺい」ら7人で表敬訪問。ポスターのパネルには表面は浜松花博、裏面に長藤まつり。「しっぺい」がいたこともあって、知事は「機嫌。司会進行のバラメダカ、全員を紹介したあと、「千寿酒と藤もなかをお伴にしてまいりました」。さすが川勝知事。「花博と長藤まつりをコラボして、どちらの藤がいいかアンケートをとったら…」など提言するほど。出席者は大感激。全員での記念撮影には知事自らが長藤まつりのポスターを前にして持つて下さるリップサービスぶり。帰り際に「清水の花井孝さんは、私のお師匠で仲間です」と言ったら、「ああ、清水の花井さんね」とニコリ。良かった、良かったの川勝知事表敬訪問でした。

■事務局だより

夏も近づく八十八夜トントン♪ 野にも山にも若葉が繁るトントン♪ 今日5月2日は八十八夜。八十八夜に摘んだお茶は美味しいとか。美味しいお茶と柏餅でも食べながら、遅れている「めだかの学校使

り」の原稿を書こう、と。

さて第83回めだかの学校は、平成26年3月7日、校長牧野久子、教頭草野博昭、用務員本島慎一郎、牧野校長と本島用務員が風邪と用事で欠席。用務員は何とかなくても校長となると、目の前にいた鈴木真弓メダカに事情を説明して「何で私が…」と言いつつ引き受けてくれた。

今回のテーマは「いにしへの術と食と知恵を今に活かす」。一時間目理科「山のお茶、洪川茶へのこだわりとは？」鈴木計芳先生。引佐町の北部、洪川でのお茶づくりや、めだかの学校言いだしっぺの故伊藤茂男メダカらと、高齢化が進む地域を盛り上げようとNPO法人「大好き洪川」の活動などを語る。二時間目家庭科「味見わたりの料理人？」西島朋子先生。初め食材を買い付ける会社に入って、色々な地域に行くいなご、へび、たにし…など持ってくるのにびっくり。昨年4月会社を辞めて、日本の食文化を次につなげようと庭先にマルシェを始める。有機食材や自然農法の食材を使った料理教室やランチをやっている。三時間目社会科「信濃の里の守り人」玉置洋一先生。南信濃村が合併して飯田市になったが、南信濃地域は2200人が現在500人減って1700人。高齢化率53%。平成9年に松本泰栄メダカに指導してもらった「そばまんじゅう」。3人のおばあちゃんが1500万円を売り上げの代表に。なんと年間300日以上出かける。飯田市の職員を定年退職して今や地域の代表に。なんと年間300日以上出かける。飯田駅から東京まで40分。過疎の地に、時代はどう変化をもたらすか…など語る。

校長訓話「事務局から学校について話すことがあるから」と鈴木真弓校長はバトナタッチのような形で簡単に済ませてく

れた。事務局からはめだかの学校の基本的な話をする。めだかの学校の授業と給食づくりは両輪である。授業は学びであるが、給食は作る過程のコミュニケーションがあり、料理の授業でもある。これからは他所から弁当をとって簡単に済ませるつもりはないことなど説明する。

お待ちかねの給食は、3月はひな祭りであるので「ちらし寿司」。肉じゃがならぬえび芋・ネギのめた、など。美味しかったなあ。（な）が出たのか忘れた、「ごめん」。給食もたけなわ！突然チャリンチャリンの鐘と共に、私語飲食全て禁止の次回三役発表。第84回は6月6日、校長 天野智加志、教頭 中村やす代、用務員 星野直樹。「もしかしたらくるかも」、「エツ、私入ったばかりなのに」、「ひさしぶりに出席して用務員、がんばります」三人三様のおことばをいただいて、現三役と握手して引き継ぐ。自薦他薦の給食係に12名手をあげる。他の生徒は感謝ですよ。

第84回めだかの学校の職員会議を4月18日（金）夜7時から学舎の一宮総合センターで開く。校長・教頭・用務員の三役と、職員15名。前回熱すぎたお茶は冷たく、寒いのにマイッタね（笑）

通年テーマは「界を超えてふるさとに学ぶ」であるので、地域をあげて先生を決める。東は島田市の池谷俊裕、中は袋井市の大橋町代、西は豊橋市の金子芳美。個性豊かな人だから、思うがままにどう？。科目と順番は決めて、細かいところは事務局では…。もちろんここまでいくには議論（？）は交わりましたが「ハイ。今回のテーマは（今を生きて、思うことは三人三様）。一時間目、国語「時の流れの中で、今思うことは…」大橋町代先生。二時間目、社会「思えばこそ叶うことあり、苦しんで楽あり…」池谷俊裕先生。三時間目、生活「20

分？思いが多くて足りな〜い…」金子芳美先生。に決める。

■常態化した発行遅れ、ごめんなさい。

いろいろと迷惑をおかけしています。伊藤英雄メダカ、鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、大島たまよメダカ、田村進治メダカ、纏めの間瀬亮太メダカ、ご協力ありがとうございました。発送などのお手伝い榊原明美さん感謝！。

■第21期は、25年9月1日から26年8月31日までです。

継続手続きがなされていない生徒は名簿からはずれ自主退学となりました。随時再入学ができますのでご連絡ください。入学希望される方がいましたら事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、8月1日予定。締切りは、7月20日です。ぜひご連絡を！郵便かFAXで。メールの方は、mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp 間瀬亮太090・50009・0986です。（メールの方は割付の関係もあるので一報を。）

■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県警田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話0538・89・7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯080・1612・9130

